

公表

(児童発達支援・放課後等デイサービス) 事業所における自己評価総括表

○事業所名	こども発達支援センターにじいろ			
○保護者評価実施期間	2025年 11月 26日		～	2025年 12月 15日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	(児童) 21 (放デイ) 44	(回答者数)	(児童) 13 (放デイ) 25
○従業者評価実施期間	2025年 11月 26日		～	2025年 12月 15日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	19	(回答者数)	19
○事業者向け自己評価表作成日	2026年 1月 26日			

○ 分析結果

	事業所の強み(※) だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	・複数の専門職(作業療法士・言語聴覚士・臨床心理士)を配置している。	・活動内容、遊具等の効果的な使い方、こどもの発達課題に応じた支援の方法、保護者への関わり方等を、専門職と連携しながら取組んでいる。	・日々の活動の様子を専門職と情報共有したり、こどもの実態把握や支援に関する研修の機会を設けたりする。
2	・外部講師(理学療法士等)より定期的に指導助言を受け、支援の質の向上に努めている。	・外部講師の指導助言を受け、障害の特性に応じて実施した機能訓練等の記録を作成している。	・取組の内容について、保護者の同意を得たうえで、必要に応じて他の事業所や学校園にも共有し、連携を図る。
3	・部屋数が豊富なため、活動内容によって使い分けができる。	・こどもの年齢、特性や活動内容に応じて、部屋を使い分けている。 ・十分な活動量の確保に加えて、環境を変えることで気持ちの切り替えに繋がるようにしている。	・行事企画に合わせて室内環境の整備等をこどもと一緒に計画・準備し、制作活動への意欲向上を図る。

	事業所の弱み(※) だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	・原則として、週1回の利用である。		・必要に応じて、利用回数を検討する。 ・限られた日数・時間を有効に使い、より適切な支援ができるよう、活動内容を工夫する。
2	・送迎サービスを行っていない。		・送迎時に保護者に対してこどものようすを丁寧に伝えることで、今後も信頼関係の構築を図っていく。
3			